

○ 各グループからの主な意見

<第2期教育振興大綱について>

- どのような人間を育てていくかについて、出された意見。
 - ① 自尊心を育むことを大事にしたい。自尊感情は自己有用感や自己肯定感によって、成り立つ。
 - ② 多様性の中で互いを認め合える力を大事にしたい。共存社会の中で力強く生きていくために、自分も他人も大切にできる心を大事にしたい。
 - ③ 社会の中で自立していく、自ら未来を切り開いていく、たくましい力を付けていきたい。自立が一つのキーワード。
 - ④ グローバル社会の中で生きていく力を付けていきたい。たくましく、粘り強い力でもあり、自分の考えを端的にまとめて、日本語でも英語でも他者に伝える力を付けていきたい。
 - ⑤ 規範意識、ルールやマナーを守る、そんなことが自然にできる力を付けていきたい。
 - ⑥ ふるさとについて自信を持って語れる、そんなアイデンティティを大事にしていきたい。
- 義務教育終了時点で、ICTに精通した人、グローバル化に対応できる人になっていて欲しいというのが大きな願い。
- アクティブラーニングも大事だが、まずは集中力を育てることが大切。
- 教育は、地域と一体で進めるものであり、子どもと地域住民を絡めた場づくりとしてのコミュニティスクールや、こども食堂などの居場所づくりが非常に大事。
- 自尊心・利他心のある人、自分で考えられる人、知・徳・体の調和のとれた人を育てるためには、教員が子どもたちをしっかりと認める必要がある。認めていることが子どもたちに伝わるようにしなければならない。
- 教員の指導力が大事。
- 課題としては、教員の資質向上がある。特に若い人のサポート体制を整える必要がある。世代間の関係性を良くする必要がある。
- 一人一人が自分で判断し、自分を律することができることを目指した教育を進めていきたい。
- 教育では、対話の力、コミュニケーションが大事で、自然体験・社会教育の充実、大人の教育も大事。
- 過疎地では、学年に子どもが一人、小中学校が一つずつということもあり、学校教育の他に家庭教育も重要。
- 家庭教育に行政が踏み込んでよいかという問題もある。しかし、踏み込むのではなく支援するという形で関わることはできる。
- ふるさとを知ることが自尊心を育み、これから成長していく子どもたちが生きていく上での基盤になる。
- 地域でコミュニケーションを取り、伝承を学び、後世につなげていく子どもを育てることが、しっかりした人間を育むことにつながるのではないか。

<ICT 活用教育の推進について>

- ICT 活用を進めることが、第 2 期大綱の実現のためには必要。
- ICT 環境を整備しても、教師がどのように指導に使えるのかという指導力の問題が出てくる。
- 一人一人の子どもたちに寄り添い、いかに多様性を大事にしていくかという時に、ICT 活用を絡めていくことが必要。
- 「一人一台のパソコンを」という国の流れの中で、奈良県を日本一の ICT 活用教育県にしたい。
- ペーパーレスにすることにより、資料作りの時間が短縮され、先生が子どもと話す機会を増やすことができる。
- 遠隔授業により、他校と交われば学べることも増える。
- ICT は、整備するだけでなく、活用する、利用するということを大事にしたい。
- ICT 環境整備や校務支援システムは、財源が課題。国からの補助をお願いしたい。

<総括>

- 野迫川村と三郷町の間での遠隔授業では、片方に免許を持たない状況で実施することを進めている。
- 教育研究所に遠隔授業も含めて、教育の情報化を中心となって進めていく部署を設置し、教員の ICT 活用指導力を高めたい。
- 本日のサミットでは、どういう人をつくるのかを考えようというのが目的、どのようにつくるのかについては、これから検討を深めたい。
- ICT 教育は、活用能力の向上が大事。
- ICT の活用例として、子どもの観察を担当だけではなく、複数の教員の目で行い、それぞれが入力した内容をまとめることで、多面的な視点で課題を発見することも考えられる。
- ICT の導入にあたっては、「県域包括契約」を活用することで、経済的効率的な導入を検討したい。
- 整備を市町村任せにせず、県も一緒に考えたい。